

## 平成31年度から始まる侵入警戒調査について（1）

国は、平成31年度から、我が国で未発生の重要病害虫について早期発見・根絶を目的に、全国的な侵入警戒調査を実施することとしました。このような調査は、これまでは各都道府県が対象病害虫を選択して実施してきましたが、今後は、国が国内を8つのエリアに分け、エリアごとに調査対象病害虫を指定し、都道府県は指定された病害虫を調査することとなりました。（表-1）

そこで、今回は、本県で調査することとなった4病害虫について説明します。紙面の関係上、今号では「コドリング」と「火傷病」について紹介します。

表-1 調査ブロックと調査病害虫

病害虫名	沖縄	九州	中国 四国	近畿	東海	関東	北陸	北海道 東北
チチュウカイミバエ	○	○	○	○	○	○		
ミカンコミバエ種群	○	○	○	○				
ウリミバエ	○	○	○	○	○			
コドリング	○	○	○	○	○	○	○	○
アリモドキゾウムシ	○	○	○	○				
イモゾウムシ	○	○	○	○				
アフリカマイマイ	○	○	○	○	○			
火傷病菌	○	○	○	○	○	○	○	○
カンキツグリーンニング病菌	○	○	○	○				
スイカ果実汚斑細菌病	○	○	○	○	○	○	○	○
ウメ輪紋ウイルス	○	○	○	○	○	○	○	○

### <本県での調査病害虫>

#### 1 コドリング

〔和名〕コドリング 〔学名〕*Cydia pomonella* 〔英名〕Codling moth

〔体長〕開張\*18～22mm（\* 両羽を開いた状態での羽の先端から先端までの長さ）

〔解説〕りんごやももなどにつく大害虫です。成虫が熟していない果実や葉の表面に卵を産み、生まれた幼虫は果実に入り、中身を食べてしまいます。日本以外の温帯気候地域に発生しています。（植物検疫ギャラリーから引用）



成虫



幼虫

※ 画像の原図は農林水産省植物防疫所所有 無断転載禁止

## 2 火傷病

〔和名〕火傷病菌 〔学名〕*Erwinia amylovora* 〔英名〕Fire blight

〔解説〕火傷病とは、エルビニア・アミロボーラという細菌（火傷病菌）による植物の病気です。リンゴやナシなどのバラ科ナシ亜科植物に広く感染し、まるで火にあぶられたように木全体が枯れて、大きな被害が発生します。

北アメリカ、ヨーロッパ、西アジアなどで発生していますが、日本では発生していないため、海外から宿主植物の枝や果実などの輸入を禁止して、侵入を強く警戒しています。



花の症状

〔生活史〕火傷病菌は、宿主植物の枝や幹の中で越冬し、春になると活動を始め、増殖した菌が、風雨や昆虫などで他の植物に運ばれて広がっていきます。

〔症状〕

(1) 花 : 開花期に風雨や昆虫で運ばれた火傷病菌が柱頭などに侵入することにより花全体がしおれます。感染した花は、りんごでは褐変、ナシでは黒変します。



葉の症状

(2) 葉 : 火傷病菌は、葉の傷や気孔から侵入して病気を起こします。花に侵入した菌が葉柄を通じて病気を起こすこともあります。葉脈に沿って褐色や黒色の病斑が広がり、やがて葉全体が枯れていきます。枯葉は枝に付いたまま残ります。

(3) 新梢 : 風雨により運ばれた火傷病菌が傷などから侵入すると、新梢は褐変又は黒変し、先端が垂れ下がる特徴的な症状を示します。これには火傷病菌の塊を伴うことが多くあります。



新梢上の火傷病菌の塊



新梢の症状



(4) 幼果 : 幼果実で発病すると、褐変又は黒変し、生育が止まります。果実表面に火病菌の塊が見つかることもあります。果実はミイラ状になります。



幼果実の症状

### <調査方法>

- 1 コドリング : フェロモントラップによる調査 (4~11月)
- 2 火傷病 : ほ場での目視調査 (5~8月)

※ 画像の原図は農林水産省植物防疫所所有 無断転載禁止